

第30回 ことう地域チームケア研究会



くすのきセンター

1階 研修室

平成30年1月11日(木)

交流会

- 講演を聞いた感想・もっと知りたいこと
 - 摂食・嚥下に関して、それぞれの現場での取り組みや課題 など
- ❁ グループ発表後は、自己紹介タイムです。

- 誤嚥性肺炎は防ぎにくい。原因菌の数が多いと肺炎になりやすい。できるだけ口の中はキレイにしておかないといけない。
- 「いかに食べてもらうか(胃に入れる)」ということばかり考えていた。何を食べているかを認識してもらうことの大切さを再確認できた。
- 誤嚥については、むせの有無について判断していた。むせの無い人が危険という話を聞き、看護師としてデイサービスでも気をつけてみていきたいと思った。
- 食前の口腔ケアができているか。食前に口腔体操はしているが、食前の口腔ケアも大事である。
- 介護保険の利用申請の段階で、かなり口の中が汚れている状態の方が多く感じる。
- 口の中の菌の数に驚いた。

《 歯科受診 通院の課題 》

- 介護保険サービスを利用している認知症疾患の方。歯科受診ができず義歯が合っていない状態で過ごしている。
- 介護度が重度の方になると、通院のための家族の負担が大きい。歯科医院でないとレントゲン検査などができないが、処置台に座るのも大変な方もいる。
- 歯科受診しやすいように通院方法を考えていく必要がある。

《 かかりつけ歯科医師をもちましょう 》

- 歯科衛生士の方に定期的に関わってもらえるとありがたい。
- 歯科医師(歯科医師会)に相談を。日頃から歯科のかかりつけ医をもっていつでも相談できるようにしておくことが大事。
- 訪問歯科の実際はどうなっているのだろう。
- 訪問診療の場合、危険も伴うので通院して治療できるのがベスト。しかしどうしても通院できない場合、かかりつけの歯科があれば、まず相談。かかりつけ歯科を持つことが大事と再認識。

《啓発》

- 在宅での口腔ケアの対応はまだまだだと思う。もっと在宅での状況を知りたい。
- 高齢者の口腔ケアについての啓発をどうしていくかが課題。
- 出前講座の開催をしている(歯科衛生士会主催で介護職員向けに実施)
- 摂食嚥下に問題がある方の多くが口腔の問題があると思っている。
- 口腔機能、口腔ケアへの意識を本人、家族に高めてもらいたい。口腔ケアの大切さどのように伝えていくといいのだろうか。
- 義歯が合わなくても在宅ではそのままになっている場合も多い。本人や家族から申し出もない。意識の問題。
- 在宅での口腔ケアの実践は難しい。まずは施設やデイサービス等、介護サービスの事業所での口腔ケアを充実できるように対策をしていけないだろうか。(嘱託歯科医師の配置など)
- 口腔機能を衰えさせない対策の促進(地域にも広げる取組)が必要。
- 義歯についての評価、誰がどのようにしていくとよいのか。

《病院～在宅、専門職の連携》

- 退院後、閉じこもり傾向。食べることを楽しみにしていたのに口腔ケアが継続できず、綺麗な歯がぼろぼろになってしまった。在宅でも口腔ケアが継続できるように、在宅で関われる職種で病院との情報共有が必要だと感じた。
- 病院で指導を受けても在宅でのサポートが分からない。

《栄養・食事形態》

- 食事形態一覧表を施設で活用している。
- 調理する人にトロミや大きさ、硬さなどを伝えるのが難しい。
- 栄養ケアステーションについて周知を。 まだあまり知られていない。
- 管理栄養士さんの在宅サポートをより一層強めてほしい。
- 5感が劣ってきている方に対する工夫が分かった。
- 嚥下困難な方が取組むリハビリは？
- 食べることや摂食嚥下については様々な専門職が関われる分野である。口腔と栄養は切れない密な関係。